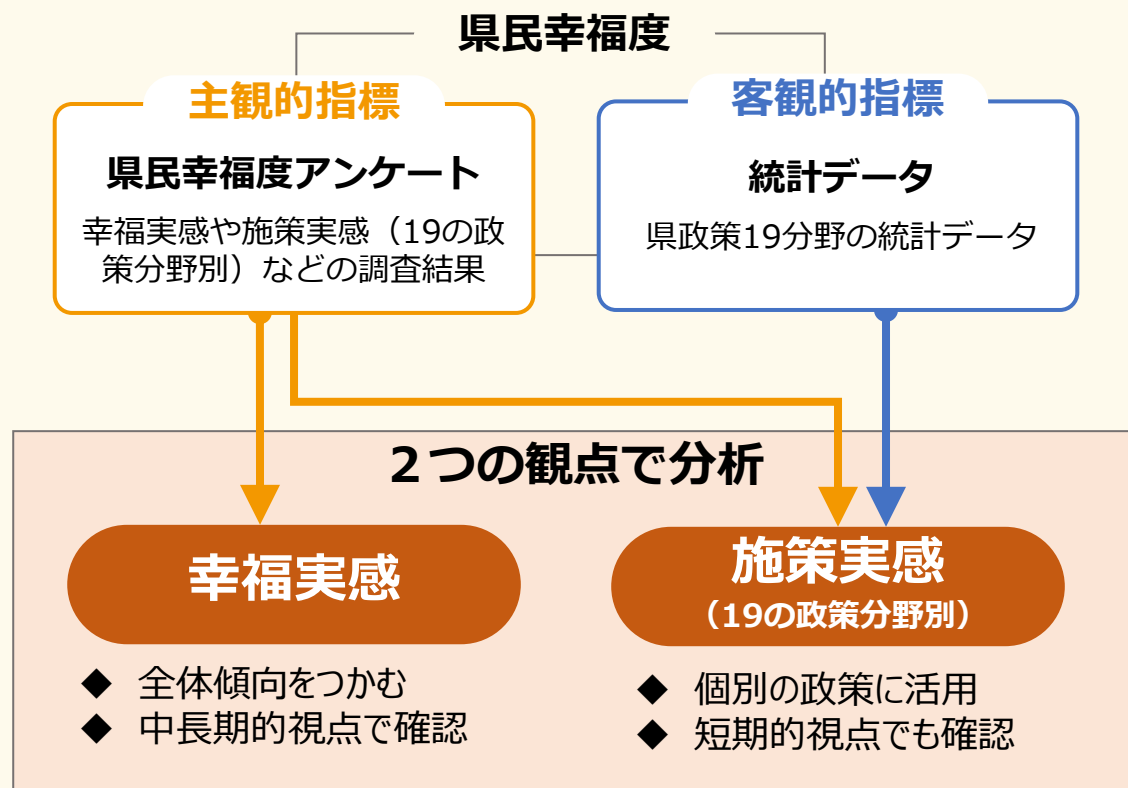


目的・概要

- 令和5年度実施の「**県民幸福度アンケート**」の結果をもとに、**県民幸福度**を**見える化**
- ①**幸福実感**、②**施策実感**（19の政策分野別）の観点で分析

1. 分析の方法



2. 今回レポートの特徴

- 幸福実感の低い人に関して分析
- 4年分の蓄積データを活用し、より丁寧に分析

3. アンケートの概要

調査対象	県内在住の満18歳以上の3,300人
調査期間	令和5年9月11日～10月13日
有効回答数（有効回収率）	1,480件（44.8%）
標本抽出方法	層化二段無作為抽出法（選挙人名簿登録者） ※県内11地域から300人ずつを抽出 地域ごとの人口割合に応じて補正
調査方法	郵送による調査票の配布 郵送又はオンラインによる回答回収
主な質問項目	幸福実感、満足感、幸せかを判断する際に重視した項目、群馬県に対する気持ち、19の政策分野別施策実感

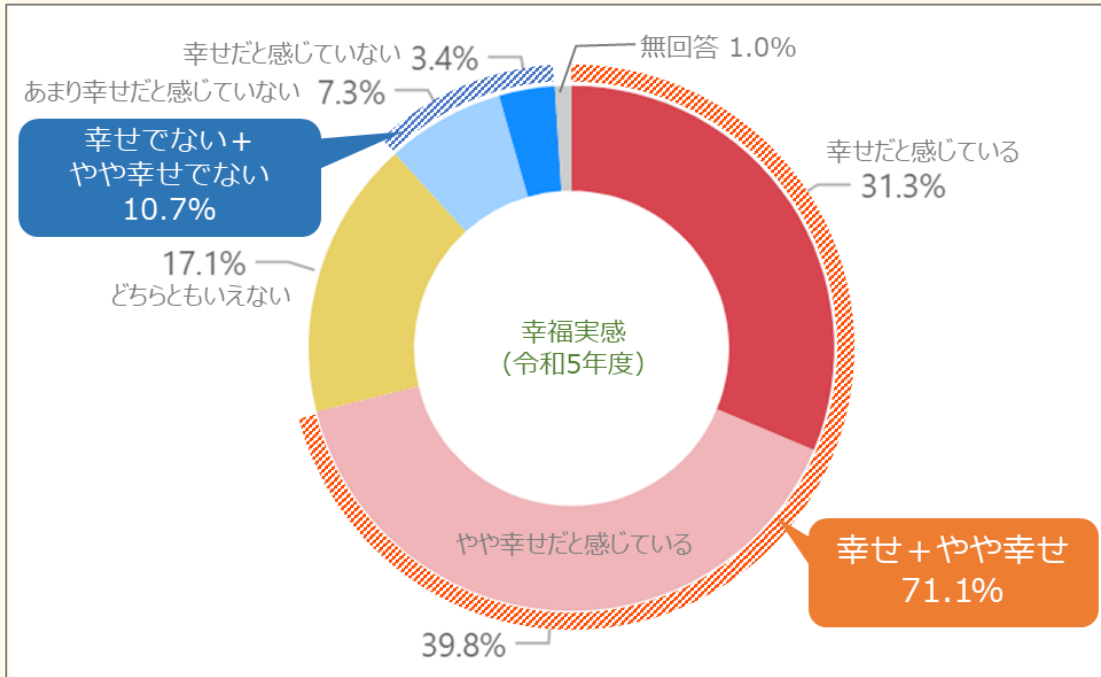
4. 令和5年度アンケート結果の概要

(1) 幸福実感

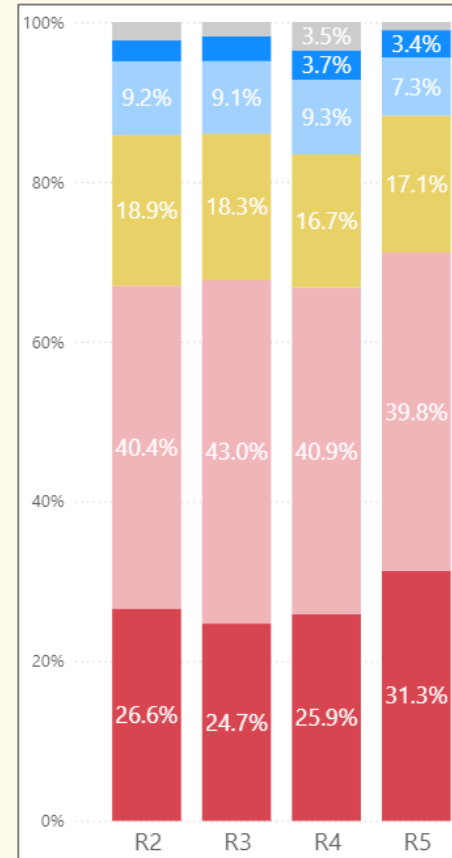
※「幸せだと感じている」と「やや幸せだと感じている」の回答割合を合わせたもの

- 『幸せだと感じている※』割合は、**71.1%** で **前年度から有意に上昇** (参考) R4年度：68.8%、R3年度：67.7%、R2年度：67.0%
- 幸せを判断した際に重視した事項の**上位5項目は4年連続**で変わらず

幸福実感



幸福実感の4年間の推移



幸せを判断した際に重視した事項

第1位	健康状況	61.8%
第2位	家族関係	51.8%
第3位	家計の状況	43.7%
第4位	自由な時間・充実した余暇	23.2%
第5位	精神的なゆとり	20.8%

(次ページの14項目から、最大3項目選択)

■ 幸せだと感じている ■ やや幸せだと感じている ■ どちらともいえない
■ あまり幸せだと感じていない ■ 幸せだと感じていない ■ 無回答

(1) - 2 14項目の満足感

※『満足している』：「満足している」と「やや満足している」の回答割合を合わせたもの
 ※満足感：設問に対する回答を点数化し（「満足している」を100点、「やや満足している」を75点、「どちらともいえない」を50点、「やや満足していない」を25点、「満足していない」を0点）、その平均を求めたもの

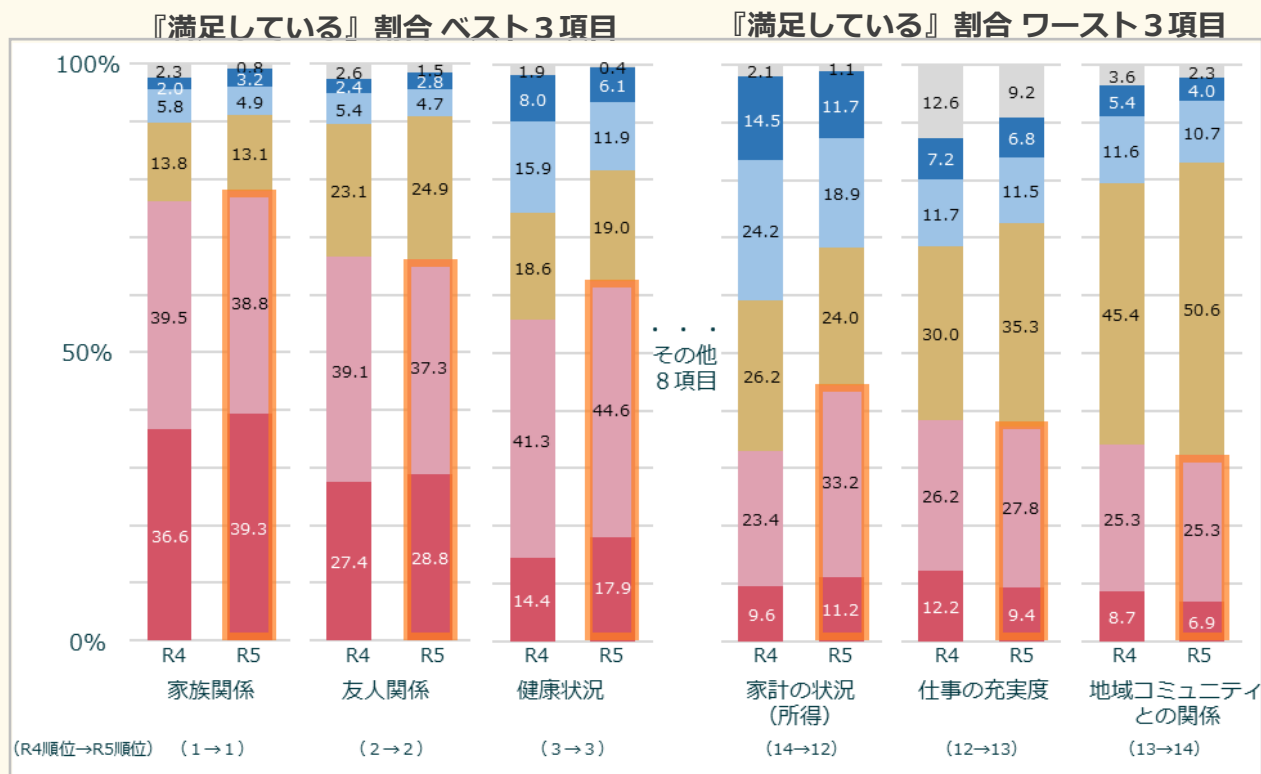
健康状況、家計の状況、就業状況、家族関係、友人関係、精神的なゆとり、生きがい、生活環境、地域の治安・防災体制、地域の自然・歴史・文化、職場の人間関係、地域コミュニティとの関係、仕事の充実度、自由な時間・充実した余暇 の14項目

- 『満足している※』割合が**最も高かったのは『家族関係』**で78.1%、**最も低かったのは『地域コミュニティとの関係』**で32.2%
- 前年度と比較して**満足感※は上昇傾向** ⇒

満足感が有意に 上昇 した項目数	…	6項目	(前年度2項目)
下降 した項目数	…	なし	(前年度2項目)
- 満足感上昇にはコロナの5類移行に伴う**生活様式の通常化**や実質賃金の上昇などの**経済要因**による**好影響**があったものと考えられる

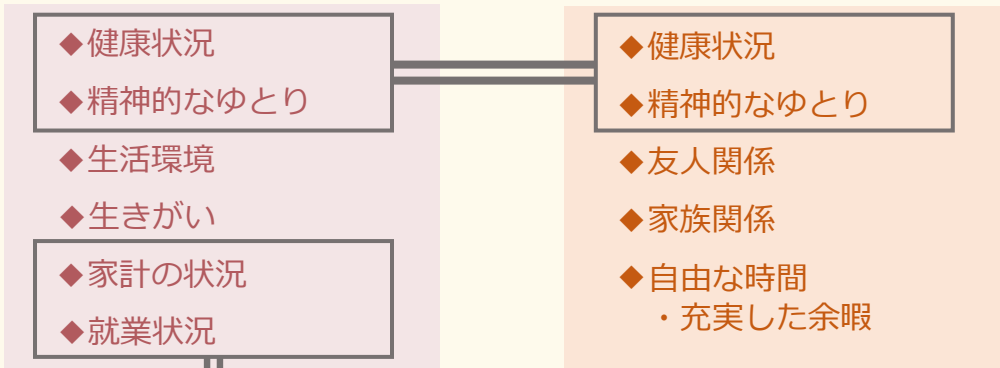
前年比較

■満足している ■やや満足している ■どちらともいえない ■やや満足していない ■満足していない ■無回答

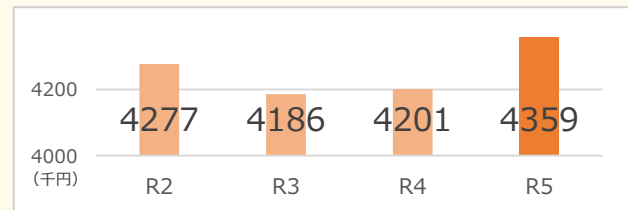


満足感が有意に上昇した項目

アフターコロナにより満足感に変化があった主な項目



客観的指標 1人あたり賃金



※別冊「群馬県幸福度レポート(令和6年度)【客観的指標一覧】」p13参照

(2) 19の政策分野別 施策実感

※施策実感：設問に対する回答を点数化し（「感じる」100点、「やや感じる」75点、「どちらとも言えない」50点、「あまり感じない」25点、「感じない」0点）、その平均値を求めたもの

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1 地域政策	1 移住者を受け入れる土壌	56.3	56.2	55.1	55.2
	2 近隣住民同士が困ったときには助け合える地域環境	56.9	55.9	56.3	56.0
2 スポーツ	1 運動やスポーツに取り組むことができる環境	58.7	57.0	58.5	↓ 56.4
	2 運動やスポーツを観戦する機会	48.3	48.8	49.8	50.8
3 文化	1 群馬の歴史文化への誇り	62.4	63.3	61.8	60.9
	2 芸術を鑑賞したり、文化活動に参加できる場	53.0	52.6	54.3	53.6
4 こども	1 安心して子どもを産み育てられる環境	56.1	55.7	53.8	52.4
	2 子育てをしながら働き続けられる環境	43.3	49.3	47.8	47.4
5 生活	1 性別や年齢、障害の有無、国籍などにとらわれない、社会のあらゆる分野での個性と能力を發揮	46.5	46.9	47.0	47.8
	2 ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.9	49.6	48.7	↑ 50.3
	3 消費者としての安心・安全	60.9	59.4	58.6	57.5
6 健康	1 健診や生活習慣病対策など健康的な生活を送るための相談や指導を受けられる環境	57.8	58.9	57.9	↓ 56.0
	2 自主的な健康づくりを促すための支援	50.2	51.3	49.8	48.9
7 医療	1 必要な医療サービスを受けられる体制	53.2	53.4	52.5	51.4
	2 救急医療体制	57.0	57.5	57.4	56.2
8 福祉	1 介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境	52.3	52.4	52.5	↓ 50.5
	2 悩みや不安、つらい気持ちを抱えた人がいつでも相談できる環境	42.8	41.9	43.5	↓ 42.0
9 環境	1 地球温暖化防止のため再生可能エネルギーの普及や利活用	46.3	44.2	44.1	43.1
	2 食品ロスを減らすための行動の定着	43.3	43.2	45.3	46.5
10 森林・林業	1 公共施設や住宅などに県産材等の木材が使われている	41.5	40.9	41.6	↓ 39.8
	2 適切な森林の管理や利用	42.8	44.3	43.1	42.4
11 農業	1 農林水産業の担い手の確保・育成	40.4	40.9	40.8	39.8
	2 群馬県産の農林水産物のブランド評価、県内外への販路拡大	53.0	50.9	51.7	50.6

↑ 上昇：令和4年度と比較し、令和5年度の施策実感が有意に上昇
 ↓ 下降：令和4年度と比較し、令和5年度の施策実感が有意に下降

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
12 産業経済	1 働きやすい職場環境の整備	44.4	44.8	43.7	43.0
	2 十分な収入を得ることができる仕事	40.7	41.5	39.3	39.1
13 観光・コンテンツ	1 魅力ある観光地づくり	49.8	49.6	51.8	↓ 50.1
	2 海外からの観光客にとって魅力的だと思う観光地	57.2	58.1	58.8	↓ 57.1
14 県土整備	1 鉄道・バスなどの公共交通機関の利用しやすさ	28.7	30.2	31.8	30.3
	2 自動車、自転車、徒歩等により、安全で快適な移動ができる道路空間の整備	45.1	44.8	45.1	↓ 41.2
15 防災・危機管理	1 自然災害への防災・減災対策や火災への防火対策	56.1	55.9	55.9	↓ 54.5
	2 災害時に必要な情報提供を受けられる体制	52.9	53.5	52.3	52.0
16 教育	1 子どもたちが自分の頭で未来を考え、率先して行動できる力を身につけられる教育	46.3	45.6	45.1	44.2
	2 教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	45.8	51.2	52.1	↓ 50.0
17 防犯・交通安全・食品衛生	1 治安がよく安心した生活	66.7	66.1	66.5	↓ 63.8
	2 交通事故が少なく安全な生活	51.7	51.3	53.5	↓ 49.7
	3 安心・安全な食品・農畜産物の提供	66.9	66.4	66.2	65.2
18 国際	1 外国人と日本人が国籍・民族・文化の違いを理解し、認め合う暮らし	49.1	49.2	50.4	49.2
	2 群馬県の文化、産業、観光などの魅力が広く世界に発信され、認められている	45.2	45.5	46.7	46.6
19 行財政改革	1 行政手続きのデジタル化と、利便性の向上	42.3	44.4	44.6	44.1
	2 新たな価値やビジネスを創出するために、行政と民間が連携・協力する体制	40.8	42.1	40.0	40.9

● 施策実感が高い項目は、

- ① 安心・安全な食品・農畜産物(65.2)
- ② 治安 (63.8)
- ③ 歴史文化への誇り (60.9)
- ④ 消費者としての安心・安全(57.5)
- ⑤ 魅力的な観光地(57.1)

● 施策実感が低い項目は、

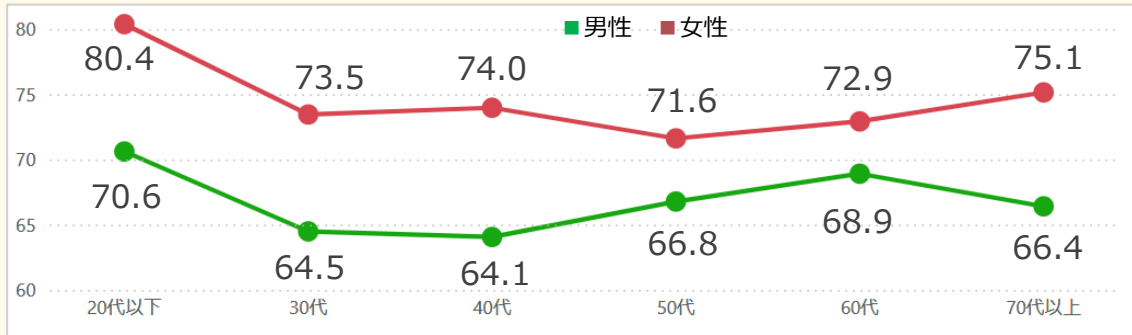
- ① 公共交通機関 (30.3)
- ② 十分な収入の仕事 (39.1)
- ③ 農林水産業の担い手(39.8)
- ④ 県産木材の使用(39.8)
- ⑤ 官民共創体制(40.9)

5. 分析の概要

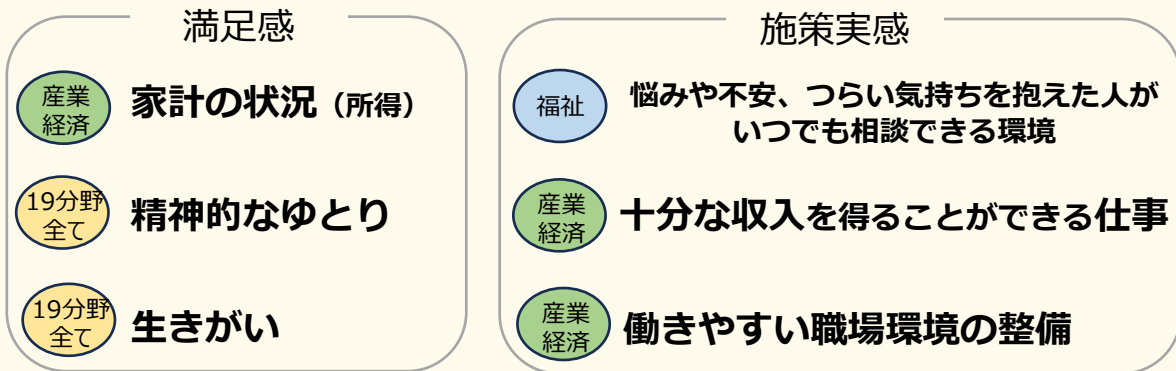
(1) 幸福実感 (年代・男女別、満足感や施策実感との関係)

- 女性より男性の幸福実感は低く、特に**30・40代男性が低い**。
- 幸福実感が低い人は、**家計や職場環境、心のゆとり**などの項目の満足感が低いため、「産業経済」「福祉」分野への注力が必要。

年代・男女別の幸福実感的平均点 (令和2~5年度の合計)



幸福実感が低い人が実感が低い項目と関連する政策分野 (令和2~5年度の合計)



(2) 施策実感 (平均点で見る傾向)

- 全施策の平均点は**前年(50.4)から1ポイント低下(49.4)**。
- 一方で、**平均点が50pを下回る項目は、毎年減少傾向**で、令和2年度以降、平均点50pを境に**4項目が上昇、2項目が下降**。
- 平均点50p未満の設問数は減少傾向にあるため、引き続き本アンケート結果を踏まえながら施策の改善に取り組んでいく。

4年間で平均点50pを前後した設問

分野	政策分野ごとの施策実感に関する設問	施策実感			
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
2	スポーツ 運動やスポーツを観戦する機会	48.3	48.8	49.8	50.8
5	生活 ボランティアや市民活動に取り組みやすい社会	48.9	49.6	48.7	50.3
13	観光・コンテンツ 魅力ある観光地づくり	49.8	49.6	51.8	50.1
16	教育 教育の充実を図るためにデジタルの活用を進める取組	45.8	51.2	52.1	50.0
17	防犯・交通安全・食品衛生 交通事故が少なく安全な生活	51.7	51.3	53.5	49.7
18	国際 外国人と日本人が認め合う暮らし	49.1	49.2	50.4	49.2
6	健康 自主的な健康づくりを促すための支援	50.2	51.3	49.8	48.9

平均点50p未満の設問数の推移

